⚠ 警告

測定結果の自己診断、治療は危険ですので医師の指導にしたがって下さい。
●自己診断は、病気が悪化する恐れがあります。

必ずプローブを清潔にして測定して下さい。
●赤外線センサーが汚れていては正しい測定結果がでない恐れがあります。

他の人が使用した後はプローブをよく消毒してから使用して下さい。
●病気が感染する恐れがあります。

赤外線センサーを手でさわったり、息を吹きかけたりしないで下さい。
●赤外線センサーが破損したり、汚れて正しい測定結果がでなくなる恐れがあります。

赤外線センサーが汚れたときは、汚れを拭きとって下さい。
●ぬらして絞ったティッシュやカット綿、綿棒、アルコール綿などで軽く拭きとって下さい。汚れて正しい測定結果がでなくなる恐れがあります。

子供だけで使わせないで下さい。
●耳を傷つけるなどけがをする恐れがあります。

乳幼児の手の届かないところに保管して下さい。
●万一、電池や部品を飲み込んだ場合は直ちに医師に相談して下さい。

帰宅後すぐなど耳が冷えている場合は、耳が温まってから測定して下さい。
●水枕や氷嚢などを当てていたときや冬など帰宅後すぐに測ると低い値になることがあります。

保管場所と測定場所の温度差があるときは、室温（測定場所）に30分ほどなじませてから測定して下さい。
●正しい測定結果がでない恐れがあります。

⚠ 注意

引火性のある環境では使用しないで下さい。
●引火又は爆発の原因となる可能性があります。

電池を火の中に投げ込まないで下さい。
●電池が破裂する恐れがあります。

無理にプローブを耳に挿入しないで下さい。また、使用中に痛みなどの異常を感じたときは、使用を中止して下さい。
●耳の穴を傷つける恐れがあります。

外耳炎、中耳炎など耳に疾病のある方は、使用しないで下さい。
●疾患部分を悪化させる恐れがあります。

お願い

- 医師に体温を知らせるときは、耳赤外線体温計で測ったものであることを伝えて下さい。
- 人間の耳内での体温測定以外に使用しないで下さい。
- 本体に強いショックを与えたり、落としたり、踏んだり、振動を与えたりしないで下さい。
- 本機の近くで、携帯電話を使用しないで下さい。
- 分解や修理、改造をしないで下さい。
- 本体は防水ではありません。液体（アルコール、水滴、熱湯など）が本体内部に入らないように取り扱いに注意して下さい。

仕様

電　　源：リチウム電池CR2032(DC 3 V)×１個
消 費 電 力：0.05W
感　温　部：サーモパイル
体 温 表 示：デジタル表示３桁＋℃表示、表示単位：0.1℃
測 定 精 度：±0.2℃　35.5～41.0℃
　　：±0.3℃　32.0～35.4℃
　　：±0.3℃　41.1～42.9℃
　　標準室温23℃にて、基準黒体を測定した場合
測 定 範 囲：32.0～42.9℃
重　　量：約45g（電池を含む）
外 形 寸 法：幅32.5×高さ114.0×奥行き23.5㎜
使用環境温度：＋16.0～＋40.0℃　相対湿度：95%以下
保管環境温度：－20.0～＋50.0℃　相対湿度：95%以下
電 撃 保 護：内部電源機器B形
主な付加機能：38℃以上で警報表示とブザー、オート測定オフ機能、
　　検温終了ブザー、室温／時刻表示
警 報 機 能：電池切れマーク表示、表示温度外表示、使用温度外表示

お問い合わせ窓口

? 修理・製品に関するお問い合わせ
原沢製薬工業株式会社 お客様相談室
電　　話：03－3441－5191
応対時間：９:30～17:00（土、日、祝日を除く）
http : //www.harasawa.co.jp/

保証規定

（１）保証期間は、お買い上げ後１年間です。
（２）ご使用中、故障が発生した場合はお問い合わせ窓口へご連絡ください。
（３）保証期間中に、通常の使用において万一故障が発生したときは、品質保証書を現品にそえて送付していただければ、無償対応いたします。
（４）ただし、以下の場合は保証の対象にはなりません。
（イ）ご使用中で取扱いの過誤（落としたり、強いショックを与えるなど）により発生した故障。
（ロ）正しい状態でご使用にならなかった場合。
（ハ）製品の改造、不当な修理により発生した故障。
（ニ）火災、地震、水害等天災地変などの不可抗力による故障及び損傷。
（ホ）故障の原因が本製品以外に起因する場合。
（ヘ）上記以外で弊社の責に帰することのできない原因により発生した故障。
（ト）品質保証書のご提示がない場合。
（チ）品質保証書にお買い上げ日、販売店名の記載がない場合、また、字句を書き換えられた場合。
（５）本保証書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.

品質保証書

このたびは、体温計を、お買い求めいただきありがとうございました。本機は厳重な検査を行ない高品質を確保しております。しかし通常のご使用において万一、不具合が発生しましたときは、保証規定によりお買上げ後、一年間は無償修理いたします。

※本機の保証は、日本国内での使用の場合に限ります。
This warranty is valid only in Japan.

品　名	ファミドック
形　式	FDIR－V１
ご芳名	
ご住所	
	Tel.　（　）

※以下につきましては、必ず販売店にて、記入捺印していただいて下さい。

お買い上げ店名	㊞
住所	Tel.　（　）
お買い上げ年月日	年　月　日

製造販売業者：原沢製薬工業株式会社　Made in China
住　　所：〒108-0074　東京都港区高輪３丁目19番17号

TS3S0Y③

原沢製薬工業株式会社
耳赤外線体温計　ファミドック　FDIR－V１

取扱説明書

医療機器承認番号：21700BZY00557000

●このたびは、耳赤外線体温計ファミドックをお買い上げいただきありがとうございます。
●安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。
●本書はいつもお手元においてご使用下さい。
●本書は品質保証書をかねていますので、紛失しないように保管しておいて下さい。

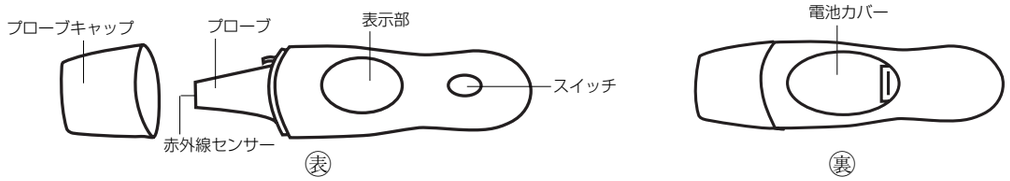
お使いいただく前に

製品をご確認下さい。

本体	
プローブキャップ（青）	１個
スタンド（紺透明）	１個
取扱説明書（品質保証書付き）	１枚

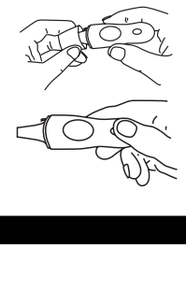
電池の絶縁シートをはずす。
1. 表示部の裏側にある電池カバーを開けます。
2. 電池と本体の間にある透明なフィルムを矢印の方向に引き抜きます。
3. 外れた電池をもう一度押し込みます。
4. 電池カバーを閉めて下さい。

各部の説明



測定の準備をします

1. 青いプローブキャップを外します。（軽くねじるようにすると外しやすいです。
　無理に外そうとすると、けがをしたり、壊れたりしますのでお気をつけ下さい）
2. プローブと赤外線センサーが汚れていないことを確認します。
3. スイッチを押します。
　この直後、ピピッと２回鳴って、前回測定した温度が表示されます。



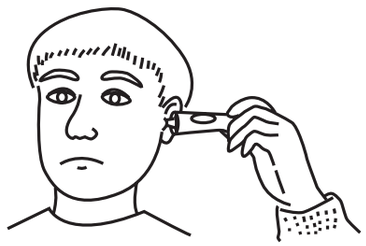
測定します

4. プローブを耳孔に挿入します。
　本体をつまむようにして鼓膜方向にそっと入れます。

5. スイッチを押して測定します。
　プローブを耳孔に挿入し、正しく挿入できたことを確認して、
　スイッチを１度だけ押して離します。測定を開始します。
　（スイッチを押した指を離してから測定を開始します）

　測定中の最も適切な温度を記憶します。
　ピッと鳴って測定が終わります。最短１秒で測定できます。

　測定結果を表示します。
　ファミドックで測定しておいた自分の平熱と比べます。



例

約30秒後に、ピッと鳴って OFF と一瞬表示された後、表示が消えます。（スイッチを押しても電源は切れません）OFFの後の表示を無表示から室温／時刻表示に切り替えることもできます。但し、室温／時刻を表示させると電池の消耗が進みます。（この切り替えは、下記の「室温／時刻表示」の項を参照して下さい）

正しく測定するために

1. 本体を測定する部屋の温度に30分程度なじませてからご使用下さい。（保管場所と温度差があると正しく測定できない場合があります）
2. スポーツ、食事、外出、入浴などの直後では正しい体温となりません。部屋の温度に30分位体を慣らしてからお測り下さい。
3. 使用するときは、プローブや赤外線センサーが清潔であることを確認して下さい。
4. 使用する前に電池マークの表示で、電池の電圧が下がっていないことを確認して下さい。電圧が不足しているときは、新しい電池に交換して下さい。
5. 耳垢がたくさんありますと正確に測れないときがあります。綿棒などできれいにしてからお測り下さい。
6. プローブを耳孔に挿入するときは、外耳道にそって自然に挿入して下さい。
7. 小さなお子さまなど耳が小さいときは、耳を軽く後ろに引っ張りながら穴をプローブでぴったりとふさぐようにして下さい。
8. 測定中、プローブを耳孔に強く押し付けたり、無理に押し込んだり、動かしたりしないようにして下さい。

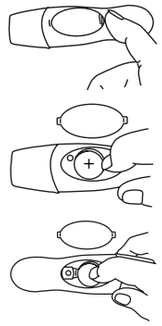
続けて測定したいとき

「測定します」に戻って下さい。
連続測定をする場合、最低１分の間隔を空けて下さい。
本体が体温で温まると正しく測定できない場合があります。

電池交換

（リチウム電池CR2032（DC３V）×１個をご用意下さい）

1.裏返して電池カバーのつまみを上げます。



2.電池を固定している金属を横に開くと、電池が外れますので取り出して下さい。
（電池の飛び出しにご注意下さい）

3.新しい電池の⊕を上にして上から軽く押すと、カチリとはまります。
（きちんと水平にセットされているかご確認下さい）

4.電池カバーを元通りにはめ、閉じます。

お手入れと保管

●お手入れ方法
〈本体〉
本体の汚れは柔らかい乾燥した布で軽く拭いて下さい。汚れがひどい場合は、布等を水又はぬるま湯に浸し、よくしぼってから拭き取ること。
水洗いや研磨剤入りのクリーナー、シンナー、ベンジン、ポピドンヨードのご使用は絶対に避けて下さい。
〈赤外線センサー〉
赤外線センサーが汚れたときは、ぬらして絞ったティッシュやカット綿、綿棒、アルコール綿などで軽くぬぐって汚れを落としてから乾かして下さい。（プローブ先端は防水です）
赤外線センサー部分を指などで触れたりすると錆びてしまうので触らないようにして下さい。

●保管方法
1.水のかからない場所に保管して下さい。
2.高い温度、高い湿度、直射日光、埃の多い場所などでは機器に悪影響が出ます。そうした恐れのない場所に保管して下さい。
3.強い振動、落下などの衝撃（運搬時を含む）などで故障します。ご注意下さい。
4.長期保管する場合は電池を外しておくことをお勧めします。
収納ケースの指定の場所に入れて保管するか、付属のスタンドにのせて、時計／温度計として使うこともできます。
5.決して分解しないで下さい。正しく測定できなくなります。故障かなと思ったら下記にご連絡下さい。

表示の説明

表　示	説　　明	表　示	説　　明
Err	環境温度が測定可能範囲外である。		時計モード
Lo	測定温度が32℃より低い		前回測定温度表示
Hi	測定温度が42.9℃より高い		電池切れ表示
	測定中		38℃以上の時に表示されます。 同時にピー、ピッピと３回警告音が鳴ります。
	表面などの温度測定モード		
	耳内温度測定モード		電撃保護の程度　B形（本体裏面記載）
	分別して廃棄すること（本体裏面記載）	CE 0413	EU指令などに基づく医療機器の安全性を裏付ける表示（本体裏面記載）

表示の意味（おかしいなと思ったら）

表　示	意　味	動　作
	スイッチを押したときに、約一秒間表示されます。	約一秒後に、前回検温した温度が表示されます。
	温度は前回の検温温度を示します。 検温可能画面です。	この表示を確認すれば、検温できます。
	電池が少なくなってきた印です。	速やかに電池交換してください。

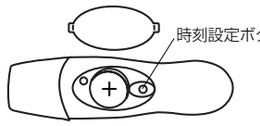
表　示	意　味	動　作
Lo	電池残量不足のため測定できません。	電池交換しないと検温できません。
Hi	検温温度が、42.9℃を越えています。	再度検温してください。
Lo	検温温度が32℃未満です。	再度検温してください。
Err	環境温度（室温など）が、高すぎるか低すぎることを示します。	室温が測定範囲を超えています。 検温場所を変更してください。
14:25　25.0℃	時計、室温表示モードに設定されているときに、時間と室温を交互に表示します。	初めて電池を入れたとき、または、電池入れ換え時に設定します。

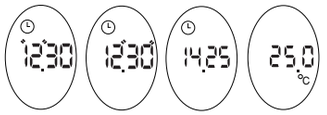
耳赤外線体温計について

耳赤外線体温計ファミドックは、赤外線センサーで耳内温度を測定します。
わきの下や舌下などによる体温の測定値は、外気温や汗、唾液などの影響を受けやすいため、体の深部温度より低く測定されます。
体温を表すと考えられる脳の温度をよく反映する耳での検温は、発熱時の体温をすばやく知ることができます。

室温／時刻表示

【時刻の設定】
1.電池交換と同じように、電池カバーを外します。
2.電池の横にある黒くて丸い小さな時刻設定ボタンを細くて固いもので押して下さい。
3.「時間」を表す数字が点滅したら、スイッチを押すことにより、時刻を進めることができます。
１回押すと１時間進みます。
4.「時間」が合ったら、もう一度、時刻設定ボタンを押して下さい。
5.次に「分」のところが点滅しますので、「時間」のときと同様に操作して下さい。
6.「時間」と「分」の両方を合わせたら、時刻設定ボタンをもう一度押します。
これで時刻設定完了です。
7.時刻と室温が10秒毎交互に表示されますので、スタンドに立てておくと、時間や室温が見やすくなります。
8.長持ちさせるには、電池を外して保管してください。
9.室温／時刻を表示させると電池の消耗が早く進みます。





【無表示にする方法】
電池の消耗をおさえたり、しばらく使用しない場合などで無表示にしたい場合
電池を外して入れなおし、上記の【時刻の設定】をしなければ、約30秒後に無表示のOFF状態になります。再度体温測定したいときは、スイッチを押せば使用できます。

耳赤外線体温計 ファミドック FDIR−V１

お使いになる前によくお読み下さい。

安全上のご注意

■ここに示した警告サインと図記号の例は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や、他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。
■表示と意味は次のようになっています。

⚠警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害＊の発生が想定される内容を示します。

＊物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットに関わる拡大損害を示します。

図記号の例

△記号は注意（警告・危険を含む）を示します。
具体的な注意内容は、△の中や近くに文章や絵で示します。
左図の場合は“破裂注意”を示します。

⃠記号は禁止（してはいけないこと）を示します。
具体的な禁止内容は、⃠の中や近くに文章や絵で示します。
左図の場合は“一般的な禁止”を示します。

●記号は強制（必ず守ること）を示します。
具体的な強制内容は、●の中や近くに文章や絵で示します。
左図の場合は“一般的な強制”を示します。